

新しい戦前にさせない

2.28 連続シンポ第2回 ー勇気をわかちあうー

「軍拡より生活」掲げ、女性目線での政治を求め

立ち上がった女性たちからの報告

*全篇がHPにアップされています。

「共同テーブルHP」 <https://www.kyodotable.com/>



左から 和田静香さん・田中優子さん・竹信三恵子さん・雨宮処凛さん・杉浦ひとみさん

(会場：全水道会館 4階会議室)

超満員のうちに開会

「岸田文雄か中村哲か」

2月28日「新しい戦前にさせない」共同テーブル連続シンポジウム第2回には169人が参加。全水道会館大会議室を超満員にした盛況で、緊張感と熱気のうちに開催された。「共同



テーブル」発起人である日体大教授・清水雅彦さんが開会あいさつ。「共同テーブル」を代表して佐高信さんが「岸田首相の軍拡か、医師の中村哲氏の平和の実現か」と、「安倍三文書」をめぐる議論の焦点をズバリと提起した。

また、参議院議員の福島みずほさんから、防衛産業「国営化」法案など、国会情勢報告とたたかう決意が述べられた。

マグマのように―「女たちの会」

パネリストとして「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」の五人が並ぶ。

冒頭弁護士の杉浦ひとみさんが、「女たちの会」の趣旨説明とともに、2月8日に約74,900人分の署名を各政党に提出したことを報告。署名は、岸田政権の大軍拡政策に反対し、生活者の目線に立った政策を進めるよう求めたもの。また、スクリーンには熊本、大阪での活動も紹介され、運動と呼びかけをゆっくりマグマのように全国に広げていることが分かった。

女たちからの提言

◇「戦争は起きたら止まらない」

田中優子さん



パネリストの最初に、法政大学前総長の田中優子さんが発言。「中国は一つであり台湾はその領土であり、それは日中共同声明で確認され今も生きている。台湾有事は日本の有事というが、その説明が

ない。米国のシンクタンクは2026年に台湾有事の戦争シミュレーションをしたが、戦争は起きたら止まらない。ベトナム戦争は10年も続いた。岸田内閣は全国300の自衛隊基地の『強靱化』を進め、軍事費43兆円の裏では教育、少子化対策は後退し、軍拡と外交無き政治は日本の滅亡の道」と指摘。そして「軍拡を今止めないと、私たちが生きているうちにもう少しで戦争が起こるような気がしてならない。高齢者は生きていけなくなる」と語った。

◇「戦費は当然」では生きてゆけない 竹信三恵子さん



和光大学名誉教授の竹信三恵子さんは、「軍事費43兆円により、ますます公務の民営化と貧困は進む。シングルマザーが貧困の中、コロナ禍で休業手当ももらえず、仕事を失って一日2食などの貧困化が常態化している。最低賃金制もフランスは物価上昇に対応した仕組みがあり、中小企業には社会保険料の減免措置もある。

しかし、日本は公務が劣化しボロボロ。異次元の子育て予算は『人口が増えれば予算が付く』などの発言にびっくり。ウクライナ戦争で世論を煽り、戦費を出すのは当たり前の風潮を変えて行かないと、生きていけなくなる」と熱く発言。

◇コンビニで働く人に考えてもらうには 和田静香さん



フリーライターの和田静香さんは、コンビニバイトの経験から。「コンビニのおばさんに対して客は横柄な態度を取り、貧しさだけでなく自尊心までくじかれる。疲れ果てて帰れば『政治も外交もどうでもいいこと』。そういう人たちに今の政治を真剣に考えてもらうことが必要。低賃金は自己責任ではないことを広げない限り解決できないことの発信が必要」と提起した。

◇何で戦争だけ財源があるのか！

雨宮処凜さん



雨宮処凜さんはパネルを表示し発言。「生きるための要求をしても財源がないからとされるのに、何で戦争に

は財源があるのか！コロナ災害緊急アクションでは2000件のSOSを受けた。アンケートの60%が10代から30代、若年化と女性の割合が増加、住まい無し、所持金100円」「電気、ガス、水道の停止」など統計から政府の無策を告発。困窮者より旅行支援の逆さま政治を告発した。

◇船橋邦子さん、神田香織さんから

休憩を挟んで、参加者からの発言を受けた。

和光大元教授・船橋邦子さんは困窮者へのボランティア活動を長年してきた経験から、政治の劣化と高齢者の行く末を見るにつけ「ババアは死ぬしかないのか！」と怒りをこめて話した。

講談師の神田香織さんは、36年間語ってきた「はだしのゲン」を広島市教育委員会が教科書から削除したことに、「自分が辛く、苦しい時に励ましてくれたゲンを、説明が大変だからと削るのは許せない。核の威嚇もあるウクライナ戦争の今こそゲンを全国に広げよう」と訴えた。



人々がどうつながるか

会場からは51枚もの質問・意見が寄せられた。「政治に関心がない人にどう向き合うか」との質問に対してパネリストが夫々発言。総じて、本当の情報がメディアから出ない中、溜まり場、ネットワークづくり、また憲法、原発、貧困、入管などに関わっている方が繋がり、ネットワーク化し、心を結びあうことが大切と述べられた。

最後に佐高信さん、清水雅彦さんから結びの言葉、そして「平和を求め軍拡を許さない女たちの会」への会場カンパ54,700円が田中優子さんに手渡され、散会した。

第2回シンポ参加者アンケートから *一部割愛させていただきました。

- 軍拡に何となく賛成している（反対しにくい）人が多い。それが自分の生活にどう関わるのか、が見えていない。今日の話のように、生活者、子どもを育てる親の立場から、この軍拡が何をもたらすのかをわかり易く語っていただければ。
- メディア・コントロールを打破して冷静に現状の異常を考えられるようになること。政府の既成事実化攻撃（閣議決定）におかしいと声をあげる。一番しいたげられている人の目線から社会を測る。男たちから政治権力を取り上げたい。
- これほどひどい状況なのになぜ大きなうねりが生じないか。人々はあまりにひどい状況で思考停止してしまっているのか。若者の無関心はなぜなのか。とにかくいてもたっても居られない思いで、今回の集会に参加した。もっと大きなうねりをつくる方法を考えてほしい！
- 和田静香さんのお話、心に沁みました。雨宮さんの「人の命を財源で語るな」、正にその通りです。五人の話者のお一人お一人のお話が、全体として「軍拡」を許さない、認めないことにつながっています。

「新しい戦前にさせない」連続シンポ 第3回

統一教会と自民党が呼び込む戦争

- ◇ 日時 5月23日（火）16時～（開場 15時30）
- ◇ 会場 衆院第一議員会館 B1 大会議室

歌 中川五郎（フォーク・シンガー）

講談 神田香織（講談師）

【シンポジウム】

有田芳生（ジャーナリスト）

平野貞夫（元参議院議員）

前川喜平（元文部科学省事務次官）

佐高 信（評論家）

連続シンポ 第4回

「中国・朝鮮脅威論は本当か？ 日本の安全保障論の危うさを突く」

日時 6月29日（木）15時～

会場 衆院第一議員会館 B1 大会議室